

# 小学校国語科における 伝えたい事柄を明確に書く力の育成

— 情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用 —

長期研修員 鈴木 裕実子

## 《研究の概要》

本研究は、書く過程における文章に表す前の思考の段階を、情報の収集・整理・交流のプロセスとし、そのプロセスにおいてメモを活用して思考することにより、伝えたい事柄を明確に書く力を育むことを目指したものである。収集・整理・交流のプロセスを意識的に児童に踏ませるために「あつめる」「まとめる」「たしかめる」の三つのステップとした。メモによって児童の思考を可視化し、この三つのステップを踏むことで、目的や意図に応じた情報の取捨選択をする力や情報の関係性を理解して適切に繋げる力を育むこととなり、伝えたい事柄を明確に書く力を高める上で有効であることを授業実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【国語-小 書くこと 明確に書く メモの活用】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-02 平成28年度 259集

## I 主題設定の理由

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果等を受け、教育課程企画特別部会の論点整理では、国語科において「伝えたい内容を明確にして表現したり、文章の内容や形式等を正確に理解したりすること、課題を解決するために、必要な情報を収集し的確に整理・解釈したり、自分の考えをまとめたりすること」の更なる充実が必要であるとされている。また、群馬県教育委員会による平成27年度全国学力・学習状況調査結果分析資料においても、国と同様の課題が指摘されている。

これらは、所属校においても同様に課題である。加えて、質問紙調査での回答状況から、文章を書くことに対して苦手意識が強く、国語に対する関心・意欲が他教科に比べて低いという実態も明らかになった。

国語の授業の実際においては、学習指導要領の指導事項に応じた言語活動を取り上げ、報告文や意見文など様々な文種を書くことについて指導を行ってきている。また児童も、形式を整えながら報告文や意見文の体裁に仕上げることはできる。しかし、それが必ずしも分かりやすいと感じられない場合がある。例えば、観察文では「芽が出て嬉しかったです」「どんな花が咲くのか楽しみです」といった感想や心情が大部分を占める、新聞では事実を伝える記事の中に意見や感想が入り交じる、報告文では単なるデータ結果の羅列に終始する、などである。これらの文章は、目的や意図に応じた情報に過不足があったり、適切に整理されていなかったりし、構成の型に合わせて書かれていても読み手にとって分かりにくい文章になっていると考えられる。つまり、伝えたい事柄や伝えなければならない事柄が明確に書けていないためである。

4年生の児童に実態調査で「説明文や報告文など誰かに伝える文章を書く時に気をつけている事」について自由記述の形でアンケートをとったところ、ほとんどの児童が「誤字脱字」や「句読点」、「決められた文章の量」を挙げていた。一方で、「目的や意図に応じた情報を落とさないこと」や「伝わりやすい順序」などについて意識していると挙げた児童は約3割であった。このことから、多くの児童が文章を書く際に、読み手にとっての分かりやすさをあまり意識していないことは明らかである。

そこで本研究では、書く過程における、文章を記述する前の書く内容について思考する段階に視点を当てる。伝えたい事柄を明確に書くためには、実際の文章にする前のこの段階において、目的や意図に応じた情報と情報の関係性についての思考を働かせることが重要であるからである。そのため、この段階での思考の流れを情報の収集・整理・交流のプロセスとし、これを児童に意識的に踏ませるために「あつめる」「まとめる」「たしかめる」の三つのステップとした。このステップにおいてメモを活用する事で、実際の文章にする前の児童の思考を可視化し、明確に書くための思考の働かせ方を身に付けさせる事ができると考えた。

以上のことから、情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用によって、児童の伝えたい事柄を明確に書く力を高めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校国語科における書くことの指導において、情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用が、伝えたい事柄を明確に書く力を高めるために有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

### 1 情報を収集するステップ1「あつめる」

情報を収集する場面で、必要な情報についての視点を持ってメモ上で可視化することで、児童は目的や意図に応じた適切な情報であるか、過不足がないかについて考えることができるであろう。

## 2 情報を整理するステップ2「まとめる」

情報を整理する場面で、記号や線で繋げたり伝える順序を考えたりすることで、児童はメモに収集した情報の関係性を理解し、適切に関連付けることができるであろう。

## 3 情報について交流するステップ3「たしかめる」

整理したメモを基に交流する場面で、メモに可視化した情報を音声で文章化することで、児童はより明確に伝わるように文章を構築し、見直すことができるであろう。

# IV 研究の内容

## 1 基本的な考え方

### (1) 伝えたい事柄を明確に書く力とは

伝えたい事柄には、必ず伝える相手が存在する。本研究では、その相手が理解しやすい文章、つまり、読み手にとって分かりやすく書かれている文章が、伝えたい事柄を明確に書くことが出来ている文章であると考え。分かりやすい文章には、目的や意図に応じた情報が過不足なく含まれていること、情報が適切に関係付けられていることという二つの要素がある。伝えたい事柄を文章にしていく過程で、この二つの要素について考えることが明確に書くためには重要である。

これを基に、本研究における伝えたい事柄を明確に書く力とは、「目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択し、その情報の適切な関係性を考えて文章に書く力」と定義する。

なお、表1は、学習指導要領解説国語編の指導事項及び言語活動例等を参考に、明確に書くために必要な要素の系統を指導時期ごとにまとめたものである。これらの要素は、各学年における限定的なものではなく、成長に従って積み重ねられていくものとする。

表1 明確に書くための要素

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
情報の収集の段階	情報を多く 大事なことと落とさないように	目的に合うように 事実を正確に	目的や意図に合うように 事実と意見を区別して
情報の整理の段階	伝える順序を考える 「はじめ」「中」「終わり」の三段構成で	伝えたいことの中心が明らかになるように 段落相互の関係を考える	構成の効果を意図して 効果的な事例や根拠の挙げ方を工夫して
文章化に必要な言語知識	◎ 語と語や文と文の続き方に注意して繋がるのある文章を書く ・主語と述語 ・長音、拗音、促音、撥音 ・助詞「は」「へ」「を」 ・句読点、「」の使い方 ・敬体の文末表現 ・順序を表す言葉 ・なかまの言葉 (上位概念・下位概念)	◎ 目的や意図に応じて理由や事例を挙げる表現を用いたり、段落相互を関係づける表現を用いたりする ・理由に関する表現 ・事例に関する表現 ・相手や目的に応じた敬体と常体の使い分け ・段落相互を関係づける表現	◎ 伝えたいことが効果的に伝わる書き方を意識して、曖昧な表現に注意する ・要旨 ・引用 ・主語と述語のねじれ ・事実と考えの区別 ・自分の考えを伝える表現 ・話し言葉と書き言葉

### (2) 情報の収集・整理・交流のプロセスとは

本研究では、実際の文章にする前に頭の中で、何を、どのように書こうかと思案する段階を情報の収集・整理・交流のプロセスと定義する。

まず、情報の収集とは、目的や意図に応じて、何の情報が必要かについて思考を働かせながら情報を集める段階である。次に、情報の整理とは、収集した情報を目的や意図に応じて、どのように繋げるかということについて思考を働かせ、情報の関係性を考えながら関連付けを行う段階である。そして、情報の交流とは、整理した情報を基に音声で文章化し、本当に伝わるか、分

かりやすいかと考えながら文章を見直す段階である。

これらのプロセスと文字に書き表すことを含めて、書くという言語活動であるが、実際の授業ではあまり文字で文章を書く前の段階に指導の重点がおかれることはない。そこで、伝えたい事柄を明確に書くためには、この情報の収集・整理・交流のプロセスにおいて文字に書き表す前に、明確に書くための要素について考えることを指導する。

### (3) メモの活用とは

メモの活用とは、情報の収集・整理・交流のプロセスにおいて、明確に書くための要素について児童に意識させ思考させるためにメモを用いることである。

本研究においては、自由に記述できる一枚紙の上に書き出された情報や、書き出す行為そのものをメモと定義する。情報の収集・整理・交流のプロセスは、文章に書き表す前の目に見えない思考の段階であるため、メモを用いることで、まだ文章が形作られる前の曖昧な頭の中に近い形で表現することができる。それによって、児童に必要な情報の内容と量や関係性について考える場を保障することになり、どのように考えているのかを児童自身も教師も認識することができる。

この情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用を児童が自覚的に踏む事ができるように、プロセスに対応する形で「あつめる」「まとめる」「たしかめる」の三つのステップとする。メモで可視化して三つのステップを踏むことで、児童は明確に書く要素について考えながら文章を構築することができる。そして、この経験を重ねることによって、児童は、実際の文章にする前の思考の働かせ方を身に付けることができると考える。

#### ① 情報を収集するステップ1「あつめる」

「あつめる」では、課題設定から相手意識や目的意識を持たせた後に、その目的や意図に合う内容や量を伴った情報を紙に書き出させる。

このステップでは、児童は、必要な情報の視点を持ってメモに単語や短文を書き出す。文章として組み立てる前の単語や短文は、書き手の考えを表現しつつも相互の繋がりは弱いため、加除訂正が容易にでき、構文力に左右されずに情報の内容と量に目を向けた言葉を集めることができる。

#### ② 情報を整理するステップ2「まとめる」

「まとめる」では、メモに収集した情報について児童に記号や線で繋がったり、伝える順序を考えさせたりして関係性を理解させ、関連付けさせる。

ここでは、図1のように線で繋ぐ・線で囲む・印を付ける・数字を付ける、などのように記号化して整理を行わせる。このような記号の意味の持たせ方は、経験を重ねるに従って、一般的な意味を踏まえた上で児童が個々に自分の思考により合ったやり方に変化させていくものと考えられる。しかし、小学校段階では様々な記号の持つ一般的な意味や整理の仕

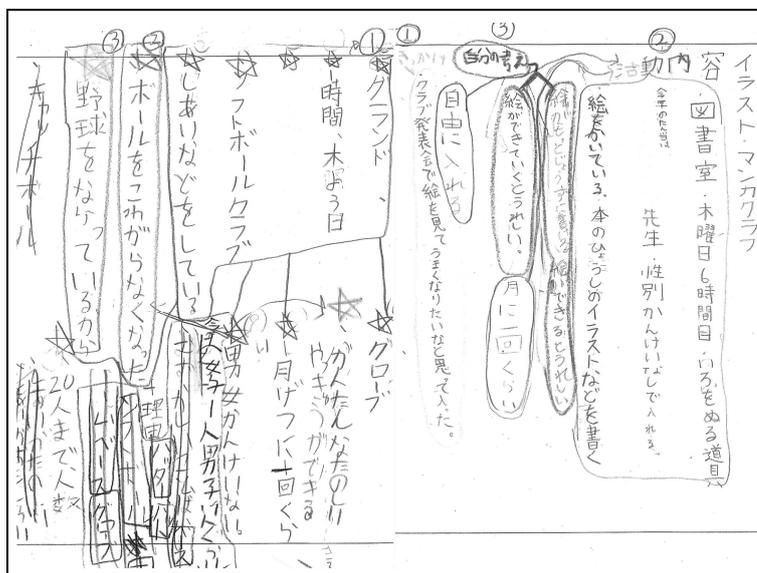


図1 「まとめる」ステップでの児童のメモ

方を知ることにも必要である(次頁表2)。そこで、相互に見せ合わせたり、実物投影機などを活用したりして、目的に合うように整理している児童のメモを全体で共有する。このことにより、児童は情報の関係性を考えながら整理の仕方を習熟させていくこともできる。

なお、児童が情報の関係性を正しく理解した上で適切に関連付けられるように、教師は、言葉のまとめ方や繋ぎ方等について、上位概念や下位概念などの関係性や文章構成の仕方など、発達の段階に応じた身に付けさせたい指導事項を押さえる必要がある。

③ メモを基に交流するステップ3「たしかめる」

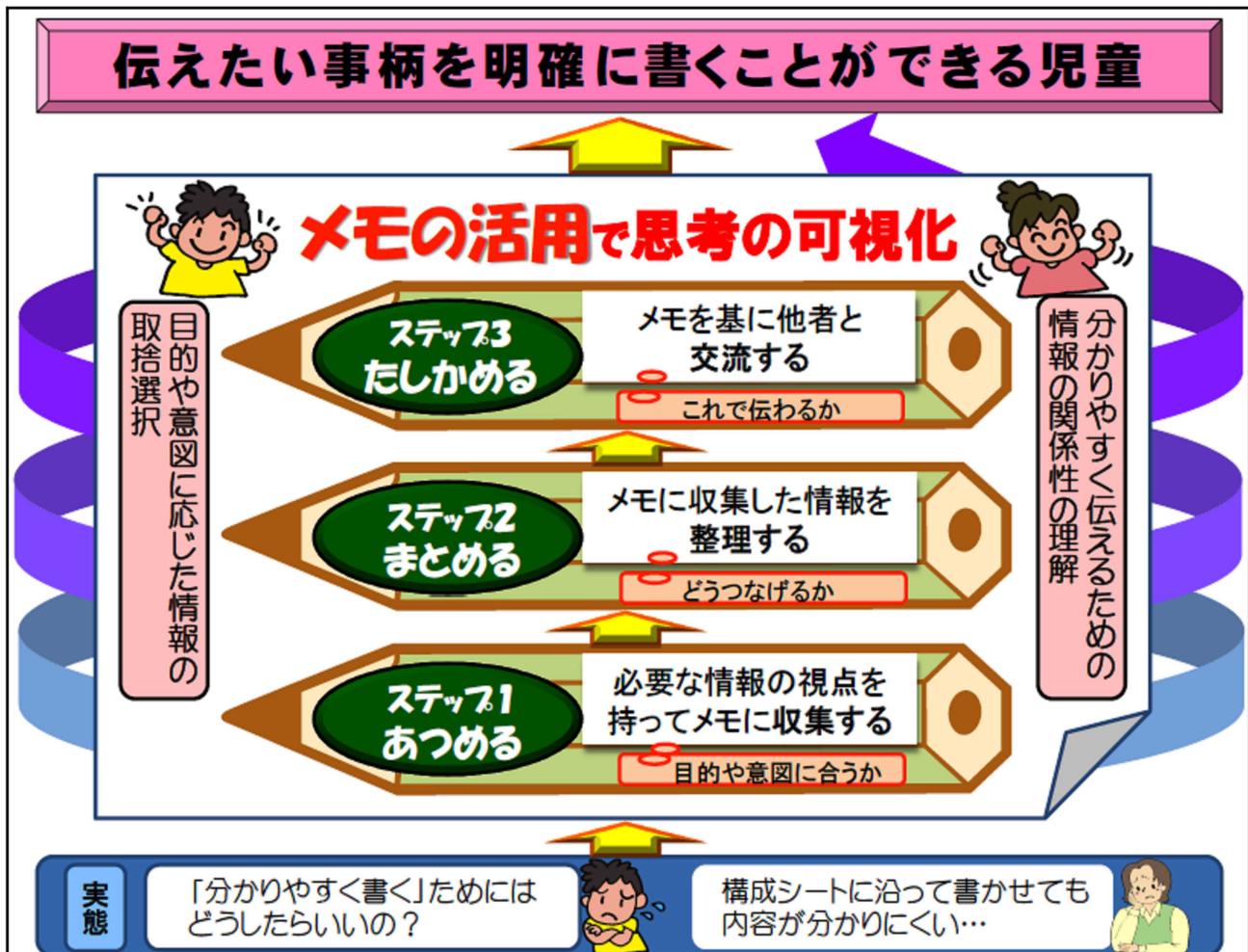
「たしかめる」では、整理したメモを基に音声で文章化させ、文章を見直させる。

児童は「あつめる」と「まとめる」ステップにおいて明確に書く要素についての思考を働かせて情報を整理し、文章のイメージを持っている。そこで、児童自身がメモを見ながら音声で文章にすることで、分かりやすい文章になるかどうか見直すことができる。文字で文章に書き表す前に確かめさせることが、他者への分かりやすさについて認識させることに繋がるのである。また、音声で文章にした方が書き表すよりも短い時間で表現することができ、やり直すことも容易であるという利点がある。さらには、他者が音声にして表現したものを聞いて自分の表現と比較することが可能になり、分かりやすさについての理解も深めることができる。

表2 整理の仕方の例

操作	意味
 線でつなぐ	上位・下位概念・結びつきの強い情報
 矢印でつなぐ	変化の情報・伝える順序
 両矢印でつなぐ	対立・反対の情報
 括弧でまとめる	同列の概念・結びつきの強い情報
 線でまとめる	
 記号でまとめる	
 線を引く・印をつける	削除する情報
 数字をつける	伝える順序

2 研究構想図



### 3 単元での取り扱い

情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用は、表3のように1単位時間扱いの授業内においても、また表4のように複数時間扱いの単元においても取り入れることが可能である。

表3 1単位時間扱いの授業におけるメモを活用した授業プラン

時 間 程	○主な学習活動 [ ] 評価規準 [ ] 学習課題 ( ) 評価の方法	◇指導上の留意点及び支援 反転文字メモの機能	関	書	言
課題把握	○本時の課題を理解する。 ◇「何を」「誰に」「どのように」伝えるのかといった目的意識・相手意識を明確に持たせる。 ～が～に伝わるように、分かりやすく～しよう		○	○	○
課題追究	<b>ステップ1 あつめる</b> ○情報をメモに書き出す。 ◇目的や意図に沿った内容や量であるかを視点として集めさせる。 ◇情報は操作性を上げるために、単語や短文の形で書かせる。 ○友達同士で、メモを見せ合い交流する。 ○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。 <b>情報の内容と量についての思考</b>				
	<b>ステップ2 まとめる</b> ○メモの情報を関連付ける。 ◇内容のまとめりや上位・下位概念、時系列など情報の関係性に応じて線で繋いだり囲んだりして関連付けをさせる。 ○読み手の分かりやすさを意識して、伝える順序を考える。 ◇ここでの指導事項を明確にし、児童と共有する。 ○友達同士で、メモを見せ合い交流する。 ○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。 <b>情報の関係性の理解・適切な関連付け</b>				
まとめ	<b>ステップ3 たしかめる</b> ○メモを基に音声で文章にして友達と伝え合い、分かりやすさについて評価する。 ○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。 ◇自分が頭の中で考えていた文章を、メモを基に音声で実際に文章化して見直すという意識を持たせる。 <b>文章の構築・見直し</b>				
	○メモを基に、文章を書く。 整理したメモや音声にした文章を基に、伝えたい事柄を明確に書いている。 (メモ、書いた文章)				
まとめ	○本時のまとめと振り返りをする。				

表4 複数時間扱いの授業におけるメモを活用した授業プラン

時 間 程	○主な学習活動 [ ] 評価規準 [ ] 学習課題 ( ) 評価の方法	◇指導上の留意点及び支援 反転文字メモの機能	関	書	言
課題把握	○本単元の学習課題を知る。 ～ための学習計画を立てよう		○		
2	○学習計画を立て、学習の見通しと自分のめあてを持つ。 ◇「誰に」「何のために」伝えるのかといった目的意識・相手意識を持てるようにする。 学習課題の解決に向けて自分のめあてをもち、振り返りを書いている。(ノート)				
	<b>ステップ1 あつめる</b> ※取り扱い時間は一例 ～を～に～するために必要なことをさがそう ○～を～に～するために必要だと思う情報を書き出す。			○	○

	<p>○個々で考えた後でグループで話し合い、必要な情報について考えさせる。</p> <p>○グループで出た考えを全体で整理して共有する。</p> <p>◇確認する中で、既習事項も含めた言語知識を確認する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">伝えたい事柄の中の目的や意図に応じた着眼点を考えることができている。 (ノート、発言)</p>			
3	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の伝えたい事柄を伝えるために、必要な情報を集めよう</p> <p>○情報をメモに書き出す。</p> <p>◇目的や意図に沿った内容や量であるかを視点として集めさせる。</p> <p>◇情報は操作性を上げるために、単語や短文の形で書かせる。</p> <p>○友達同士で、メモを見せ合い交流する。</p> <p>○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。</p> <p style="text-align: right;"><b>情報の内容と量についての思考</b></p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">メモに、目的や意図に応じた内容と量の情報を書き出している。(メモ)</p>	○	○	
4	<p><b>ステップ2 まとめる</b> <span style="float: right;">※取り扱い時間は一例</span></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分かりやすく書くために、内容のまとめや順序を考えて情報を整理しよう</p> <p>○メモした情報を線や記号で繋いだり、伝える順序を考えるなどして関連付ける。</p> <p>◇ここでの指導事項を明確にし、児童と共有する。</p> <p>◇適切に関連付けたり、見やすく整理している児童のメモを全体で共有する。</p> <p>○友達同士で、メモを見せ合い交流する。</p> <p>○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。</p> <p style="text-align: right;"><b>情報の関係性の理解・適切な関連付け</b></p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">線で繋いだり順番をつけるなどして、メモの情報の関係性を考えて適切に関連付けをしている。(メモ)</p>		○	○
5	<p><b>ステップ3 たしかめる</b> <span style="float: right;">※取り扱い時間は一例</span></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メモを基に伝え合っ、分かりやすさを確かめて原稿用紙に書こう</p> <p>○メモを基に音声で文章にして友達と伝え合い、分かりやすさについて評価する。</p> <p>○交流を基にメモを見直し、必要に応じて加除訂正する。</p> <p>◇自分が頭の中で考えていた文章を、メモを基に音声で実際に文章化して見直すという意識を持たせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>文章の構築・見直し</b></p> <p>○メモを基に、文章を書く。</p> <p>◇身に付けさせたい言語知識を意識できるように、再度確認をする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">メモを基に音声で文章化したり友達からの評価を受けたりして、分かりやすさを意識して文章に書いている。(観察、メモ、書いた文章)</p>		○	○
6	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メモを基に文章を書き上げて、完成させよう</p> <p>○書き終えてない部分について、メモを基に文章を書く。</p> <p>◇身に付けさせたい言語知識を意識できるように、再度確認をする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">メモを基に目的や意図に応じた、明確な文章を書いている。(書いた文章)</p>		○	○
7	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書いた文章を読み合い、友達の書き方の良さや工夫を見つけよう</p> <p>○グループで文章を読み合い、相互評価をする。</p> <p>○本単元で学習したことを振り返り、まとめる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">本単元でメモの活用を通して学習した、分かりやすく書くために必要なことを理解して、評価したり振り返ったりしている。(ノート・発言)</p>	○	○	

## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践の概要

検証のための授業実践にあたり、まず所属校の4年生の児童に実態調査を行った。実態調査の内容は以下のとおりである。

図2のイラストを児童に提示し、「イラストの腕時計を絵を見ていない人に文章で説明する」という活動を設定した。その際に、必要と考える情報を書き出して整理するスペースを与え、メモを活用した後に文章化させた。その結果、書き上げた文章に情報の不足や誤りがあったり、情報を伝える順序が分かりにくいものであるなど、明確に書く要素についての課題が多く見られた。また、文章を考えるためにメモを十分に活用できていない実態が見られた。



図2 実態調査イラスト

実態調査の結果を踏まえ、同学年において7月に1単位時間の授業と10月に書くことの単元において7時間予定の授業実践を行った。7月の授業では、写真に写っている夏の風景を、リポーターになって報告するための文章を書くという言語活動を設定した。10月の授業では、自分が所属しているクラブ活動を3年生に紹介する文章を書くという言語活動を設定し、授業実践を行った。

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
〔見通し1〕 情報を収集する ステップ1 「あつめる」	情報を収集する場面で、必要な情報についての視点を持ってメモ上で可視化させたことは、目的や意図に応じた適切な情報であるか、過不足がないかについて考えさせることに有効であったか。	・メモの記述 ・「あつめる」活動の児童の取組の様子 ・振り返りの記述
〔見通し2〕 情報を整理する ステップ2 「まとめる」	情報を整理する場面で、記号や線で繋げたり、伝える順序を考えさせたりしたことは、メモに収集した情報の関係性を理解し、適切に関連付けることに有効であったか。	・メモの記述 ・「まとめる」活動の児童の取組の様子 ・振り返りの記述
〔見通し3〕 メモを基に交流する ステップ3 「たしかめる」	整理したメモを基に交流する場面で、音声で文章化したことは、文章を構築し分かりやすさを意識して見直すことに有効であったか。	・振り返りの記述 ・「たしかめる」活動の児童の取組の様子 ・書いた文章の内容

### 3 抽出児童

A	書くことに対して、何を書いたら良いか分からない、長い文章が書けないなどのように、苦手意識を持っている。実態調査では、メモに収集した情報の量も少なく、書いた文章も「～を説明する」という目的に合致していなかった。三つのステップでメモを活用することで、伝えたい事柄の中から目的や意図に応じた内容や量の情報を取り出し、関係性を考えるという視点について着目させ、文章を構築する力を高めたい。
B	実態調査では、メモした情報をそのまま文章にしていたため、必要性が低い情報が含まれていたり、伝える順序も整理されておらず、読み手にとって分かりにくい文章となっていた。メモを活用して、指導事項を確認したり友達と比較させたりして取り出した情報が目的や意図に応じたものであるかや、情報の関係性を考えさせ、適切に関連付けて書く力を高めたい。

### 4 指導計画

※資料編に掲載

## VI 研究の結果と考察

### 1 情報を収集するステップ1「あつめる」

#### (1) クラス全体の様子

実態調査のイラストについて説明する文章では、読み手がその物を頭の中でイメージできるように、色や形などの視覚的な情報を必要とするが、児童のメモには「とても軽い」「正確な時間が分かる」などの必要性の低い情報の取り出しも多く見られた。また、情報を収集することができず、書いた文章も一文のみという児童も見られた。

一方、7月の授業実践では、児童が収集した情報の9割近くが「風景のよさを報告する」という目的や意図に合った情報を取り出しており10月の授業実践では全員が「クラブ活動を紹介する」「クラブ活動について3年生に一番伝えたいこと」という目的や意図に応じた情報を取り出している(図3)。これは、児童がメモしながら「風景の良さを伝えるには、どんな情報が必要か」「3年生にクラブ活動について自分が一番紹介したいことを伝えるためには、どんな情報が必要か」「これで十分に伝わるか」というように、目的や意図に応じた情報の内容と量という視点を持って情報を取り出したためと考えられる。

さらに、個々にメモした後に、メモを他の児童と見せ合い確認し合わせたところ、どちらの実践においても約7割の児童が情報の追加を行った(図4)。これは、メモによって情報が可視化され、その内容と量について他者と比較することで情報の過不足について再考し、不足に気付いた児童が多かったためと考えられる。余分な情報と考えて削除する児童がいなかったのは、多くの児童が目的や意図に合った情報の取り出しを行えるようになってきたためと考える。

以上のことから、必要な情報についての視点を持たせ、メモ上で可視化させたことは、児童に目的や意図に応じた適切な情報であるかや情報の過不足について考えさせる上で有効であったと考えられる。

#### (2) 抽出児童の様子

抽出児Aは、5月の実態調査においては「軽いです」「時間が分かります」といったイラストの説明としては必要性の低い情報や「数字が書いてあります」「1~12まであります」といったイラストにない誤った情報もメモしている。しかし、次頁図5のように、7月の写真の風景を報告するためのメモでは、見えている物の名前だけでなく、音や規模の情報を入れることで臨場感を出し、風景のよさを伝えようとしている。さらに、友達と確認し合った後に誤った情報の訂正も見られる。10月の実践では、アンケートで3年生が最も多く知りたいと答えていたクラブ活動への取り組み方を一番伝えたいことと考え、友達とメモを確認し合った後に点線部分の情報を付け足している。また、7月の実践では情報を縦に繋げて書き出しているが、10月には情報と情報の間を空けて余裕を持たせるなどの表現の仕方の変化も見られる。これは、7月に三つのステップを踏んでメモを活用するを経験したことで、収集の段階でどのように書き出すと、次のステップで整理しやすいかを意識したためと考えられる。

一方、抽出児Bは、個々で情報を書き出す段階では、なかなか情報を書き出すことができず、戸

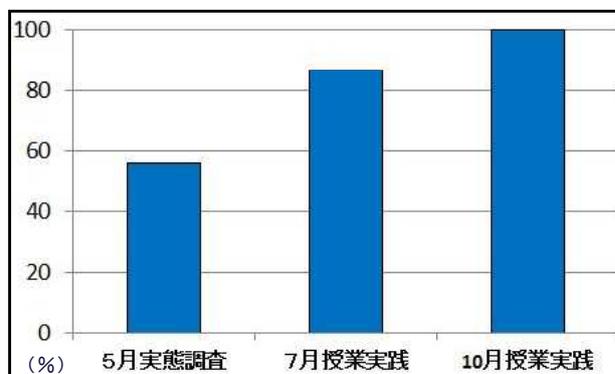


図3 目的や意図に応じた情報を収集できた児童

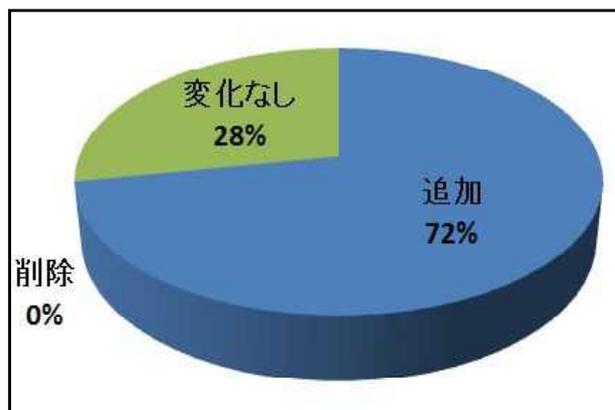


図4 「あつめる」ステップにおける情報の加除訂正

惑っている姿が見られた。しかし、他の児童とメモを見せ合う中で「ああ、そういうことか」と呟きながら情報を追加した。抽出児Bは、メモで情報が可視化され、自分と他者を比較することで、どんな情報があると良いのかという目的や意図に応じた情報の内容について理解することができたと思われる。その結果、7月、10月ともに必要性の低い情報や誤った情報などが含まれることはなく、7月は風景のよさを伝えるために形容詞を多く付け足す姿も見られた。記述の仕方については7月は後から思いついた情報を下段に付け足したが、10月は情報と情報の間にゆとりを持たせてメモし、紹介するクラブの活動内容について自分が目を付けた点に小見出しを付けるなど経験を積むごとに表現の仕方を工夫している様子が見られる(図6)。

このことから、抽出児童においても、目的や意図に応じた情報の内容や量を考えるという視点を持たせて、メモに可視化したことが有効であったと考えられる。

## 2 情報を整理するステップ2「まとめる」

### (1) クラス全体の様子

実態調査では、6割以上の児童は書き出した情報をそのまま文章にし、関係性を考えて文章にしていた児童は4割に満たなかった。その結果、情報量が多い児童でも音声で文章にして伝えさせてみると、イラストに描かれた物が腕時計であるということを手が理解するまでに時間がかかっていた。

しかし、7月、10月の実践では、多くの児童が色という上位概念を赤や青などの下位概念と繋いだり、活動時間や場所、行っていることなどは活動内容という言葉のまとまりにしたりしていた。また、自分の考えの後に理由や事例を挙げたり、伝えたいことの中から詳しくする言葉を付け足していくなどの、情報の関係性を踏まえた関連付けが見られる児童が、7月の実践では6割未満だったものが、10月の実践では約8割を越えた(図7)。

このことから、情報を線や記号で繋いだり順番を付けたりすることで、児童は情報の関係性について思考を働かせることができたと考えられる。7月よりも10月の実践の方が割合的に高くなっているのは、メモで情報を整理しながら、既習の言語事項や単元の指導事項を全体でも確認し、友達とも見せ合いながら確認したため、メモを活用する回数が増えるほど情報の関係性を理解できた児童が増えたためと考える。

また、個々に整理したり友達とメモを確認し合った結果、このステップにおいても多くの児童が文章化する際の情報の加除訂正を行っている。「あつめる」ステップでは主に情報の追加であったが、このステップにおいては、削除や訂正なども見られた。これは、関連付けることで情報が繋が

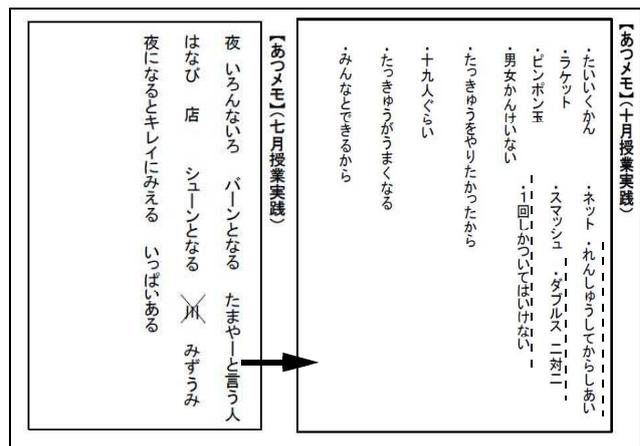


図5 抽出児童Aのメモの変化

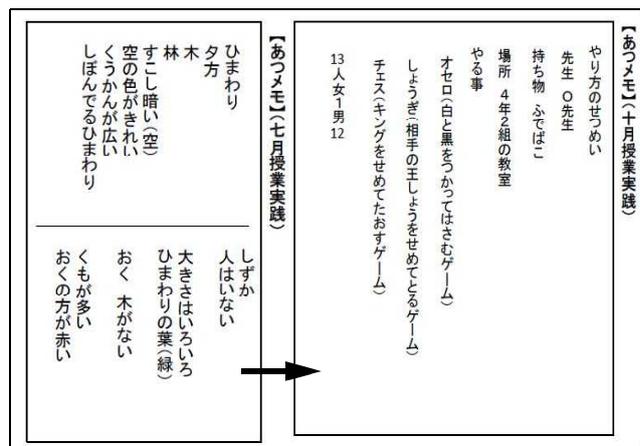


図6 抽出児童Bのメモの変化

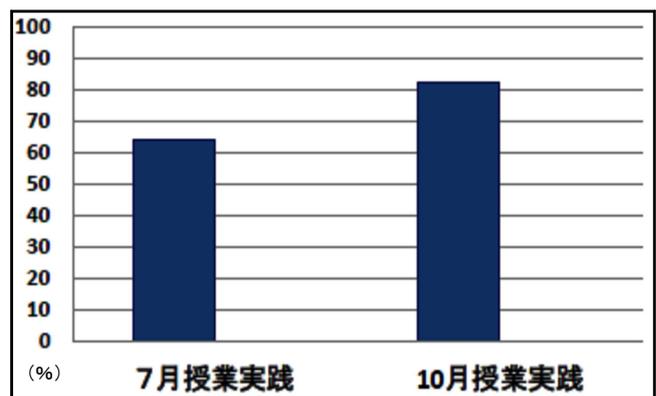


図7 メモに収集した情報を適切に関連付けた児童

って文章のイメージとなり、情報の過不足や誤りに気付いたためと考えられる(図8)。

さらに、「まとめる」ステップ後の児童の振り返りでも「内容のまとまりごとに整理したら『楽しい』という自分の考えの理由がないことに気付いた」「伝える順序が変わると分かりやすさが全然違うことが分かった」「線で繋いだり順番を考えたら、頭の中で文になってきた」など関係性を理解し関連付けしたことがうかがえる記述が8割以上の児童に見られた。

これらのことから、情報を整理する場面で、記号や線で繋げたり伝える順序を考えたりすることは、メモに収集した情報の関係性を理解し、適切に関連付ける上で有効であると考えられる。

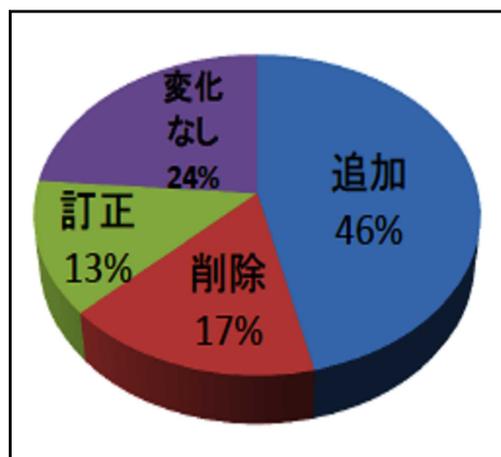


図8 「まとめる」ステップにおける情報の加除訂正(10月実践)

## (2) 抽出児童の様子

抽出児Aは7月の実践では、一部の情報の関連付けしか行っていない。これは、抽出児Aがメモした情報の関係性の理解が不十分であったためと考えられる。情報がバラバラのままでは、伝える順序を考えることも難しいため、順番を付けることもできていない。しかし、10月の実践では、離れた情報を関連付ける際に線で繋ぐなど記号を使う工夫が見られ、伝える順序についても考えられた。また友達と見せ合って確認した後に、詳しい情報の追加も行った(図9)。これは、他の児童の整理の仕方を知ったり友達から助言してもらったりすることで、情報の関係性を理解して関連付けることができたためと考えられる。

一方、抽出児Bは、7月の授業実践では図10のように全てを線で繋いで関連付けた。はじめは、鉛筆の実線で繋いでいたが、線が増えるに従って見づらくなることに気づき、最終的に色分けをして線を引き、区別しやすかった。さらに、関連付けたあとに状況が正確に伝わらないと思われる具体的ではない情報を削除し、数量を表す情報を追加している。

また、10月の実践では線を繋げて関連付けることはせずに線で囲んでいる。これは、情報を収集する段階で、まとまりを意識して情報を近くに寄せていたためである。抽出児Bは、メモを活用して思考する経験を積む中で、情報を収集する段階から情報の関係性を意識し、自分なりに整理しやすいように記述の仕方を考えられるようになったと考えられる。10月の授業実践では、関連付けた結果、メモがクラブの活動内容の説明に終始していることに気づき、そのクラブに入った動機とその成果の情報を追加している。

以上の様子から、メモに収集した情報を記号や線で繋げたり、分かりやすく伝える順序を考えたりさせたことは、抽出児童においても情報の関係性を理解し、適切に関連付ける上で有効であったと考えられる。

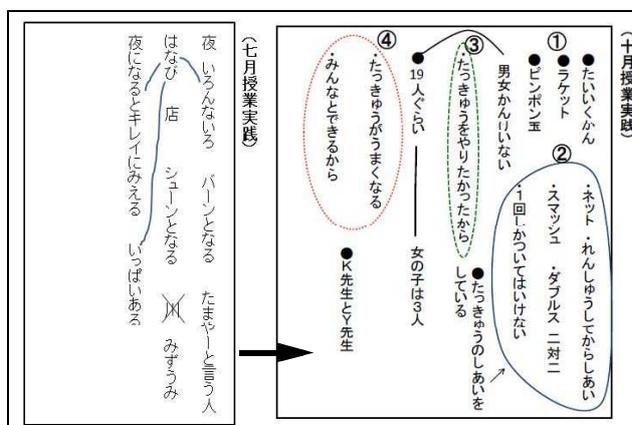


図9 抽出児童Aの整理の様子

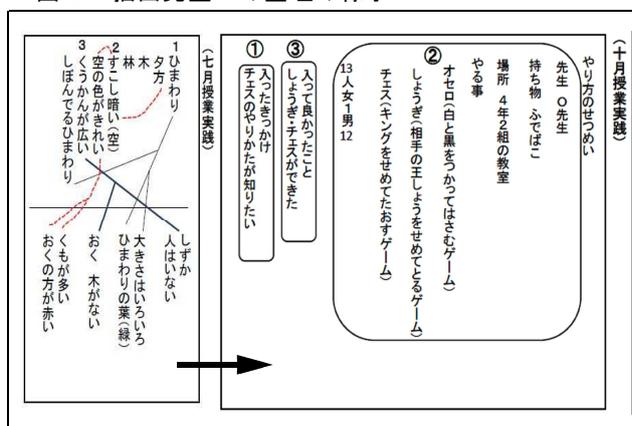


図10 抽出児童Bの整理の様子

### 3 情報について交流するステップ3「たしかめる」

#### (1) クラス全体の様子

##### ① 文章の構築

メモを基に音声で文章化し伝え合った後の児童の振り返りでは「声で伝えてみたら書くことがはっきりした」「伝えている時に、おかしな部分に気付いた」といった記述が見られた。これは「あつめる」「まとめる」のステップを通して文章のイメージが形づくられるとともに、音声にして伝えようとする中で分かりやすい文章を構築しようという意識が現れたと捉えることができる。さらに「〇〇さんが分かりにくいと言ったので、順番を変えた」「〇〇君が同じことを繰り返してるよ、と教えてくれて気付いた」などの友達からの評価や指摘によって文章を再考したと記述している児童も見られた。授業後のアンケートでも「メモを基に友達と伝え合ったことは文章を書くことに役立ったか」という質問に対して、8割の児童が「とても役に立った」「役に立った」と回答している。これらのことから、音声にして文章化することは、児童が文章を構築する上で有効であったと考えられる。

なお「たしかめる」ステップにおいても図12のような情報の加除訂正が見られたが、7月、10月ともに約半数の児童については記述の変化がなかった。加除訂正をしない児童の割合が他のステップより増えた理由は「あつめる」と「まとめる」ステップにおいて、目的や意図に応じた情報の過不足や適切な関係性について十分に思考することができたためと考えられる。しかし、音声にして文章化することで気付くことができた児童もいることから、文章の明確さをより高める上でも「たしかめる」ステップは有効であると考えられる。

##### ② 正しい構文や段落意識

「たしかめる」ステップを経て児童が書いた文章の構文面に目を向けると、図13に示したように、主語・述語のねじれがなく、正しく書けている児童の割合が高くなっている。これは、音声で文章化することで、頭の中で形作った文章の分かりやすさについて見直した結果と考えられる。一文が長くなり過ぎると、主語・述語の欠如やねじれが起きやすい。しかし、音声で他者に分かりやすく伝えようすると、簡潔さや主語・述語をより意識することになるため、多くの児童の文章が正しい構文で文章化することができたと考えられる。

10月の授業実践では、全ての児童が内容のまとまりごとに段落を分けて文章を書いていた。これは「たしかめる」ステップで音声で文章化する際に、整理したメモを基に伝えることで、内容のまとまりについても再認識できたためと考えられる。

#### (2) 抽出児童の様子

抽出児Aは、7月の授業実践では「まとめる」ステップでうまくメモの情報を関係付けたり、伝える順序を考えられなかったために、文章を頭の中で組み立てることができなかった。「たしかめる」ステップにおいても教師の支援を受けながら友達に伝えた。そのため、授業の振り返りにも「友達に話すのが難しかった」と書いている。しかし10月の授業実践では「まとめる」ステップで自分なりにメモの情報を関係付けて内容のまとまりを考えたり、伝える順序を考えたりすることが



図11 「たしかめる」ステップの様子

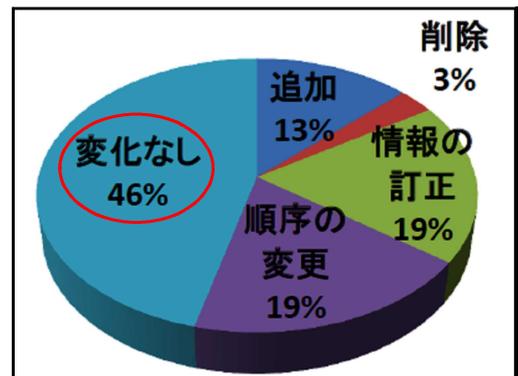


図12 「たしかめる」ステップでの情報の加除訂正（10月実践）

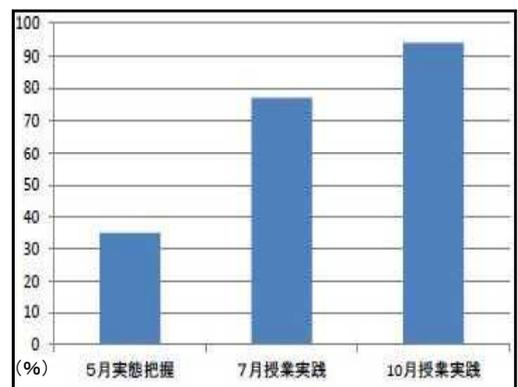


図13 正しい構文で書いている児童

できたために「たしかめる」ステップでも教師の支援なくメモを基にして音声で文章化することができた。振り返りにも「友達と確認することができた」と書き、授業後に「次の時間には文を書くんだね」と発言するなど、実際の文章にすることを楽しみにしている様子が見られた。

抽出児Bは、10月の授業実践では「まとめる」ステップの段階で、文章化のイメージが明確に持てたようで「もう今すぐにでも書ける」と自信を見せていた。しかし、交流した友達からクラブ活動特有の言葉について質問され「3年生も分からないだろうから、説明した方がいい」とアドバイスを受けて、メモに情報の追加を行った。抽出児Bは、この日の振り返りに「自分が難しい言葉を使っていることが声に出してみたら分かった」と書いている。また、抽出児A・Bともに構文面での向上が見られ、段落を意識して実際の文章に書くことができた。

これらのことから、抽出児童においても、メモを基に音声で文章化したことは有効であったと考えられる。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 文章を書く前段階の、情報を収集・整理・交流するプロセスにおいてメモを活用することで、児童は、目的や意図に応じた情報の内容や量について考え、情報の関係性を理解し適切に関連付けて文章を構築することができた。その結果、必要な情報を適切に取捨選択する力と情報の関係性を理解して適切に繋げる力がつき、児童の明確に書く力が高まった。
- 実際の文章に書き表す前にメモを基に音声で文章化してみることは、分かりやすく伝えることへの意識を高めた。そのことから、「書くこと」の単元だけでなく「話すこと・聞くこと」の単元と関連させた指導においてもメモの活用は有効であると考えられる。

### 2 課題

- 必要な情報を適切に取捨選択したり関連付けたりする力は、様々な目的に応じてメモの活用を繰り返し経験することで身に付けられると考えられる。よって、各学年の明確に書く要素を踏まえ、情報の収集・整理・交流のプロセスにおけるメモの活用を継続して指導していく必要がある。

#### <参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（2008）
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】』教育出版（2013）
- ・植地 洋子 京都市総合教育センター研究課研究員  
『国語科における小中9年間の「書くこと」の系統性を踏まえた具体的な指導・支援の在り方』（2007）
- ・秋田 喜代美 『読む心・書く心 文章の心理学入門』（株）北大路書房（2002）
- ・中原 國昭・大熊 徹 編 『国語科授業用語の手引き 第二版』教育出版（2009）

#### <担当指導主事>

委文 弥生 佐藤 淳